大恩は語らず

太宰治

青空文庫

先日、婦人公論のNさんがおいでになつて、「どうも、たいへん、つまらないお願ひで、いけませんが、」と言ひ、恩讐記といふテエマで數枚書いてくれないか、とおつしやつた。「おんしうき。恩と讐（あだ）ですか。」と私は、指先で机の上に、その恩といふ字と、讐といふ字を書いて、Nさんに問ひただした。Nさんは卒直な、さつぱりした氣象のおかたであつた。「さうです。どうも、あまりいいテエマぢや無いと、私も思ふのです。手紙でお願ひしたら、あなたは、きつとお斷りになるだらうと思ひましたから、ですから、私がけふお宅へお願ひにあがつたのです。恩は、ともかく、讐（あだ）なんて、あまり氣持のよいものでは無いのですから、テ

エマにあまり拘泥せず、子供の頃、誰かに毆られて、くやしかつたとか、そんな事でもお書きになつて下さつたら、いいのです。」
私には、Ｎさんの親切は、よくわかるのだが、内々、やり切れない氣持であつた。とにかく、斷るより他は無いと思つた。「私には、書くことはありません。恩といへば、小さい時から、もう恩だらけで、いまでも、一日も忘れられない恩人が、十人以上もありますし、一々お名前を擧げて言ふのも、水くさくて、かへつて失禮でせうし、『大恩は語らず』といふ言葉のとほり、私は今では、あまり口に出して言ひたくないのです。復讐感の方は、一つもありません。癪にさはつたら、その場で言つてしまふ事にしてゐます。」

以前、私は恩を感じてゐるお方たちに、感じてゐるままに、「恩」といふ言葉を使つて言つて、かへつてそのお方達や、またその周圍の人たちに誤解されてしまつた事があるのだ。めつたに、口に出して言へる言葉でないやうである。

「それでいいのです。」とNさんは、私の説明に肯定を與へてくれた。「いま、おつしやつた事を、そのまま書いて下さつたら、いいのです。」Nさんは、私同様に、汗の多い體質らしく、しきりにハンケチで顔の汗を拭いて居られた。

「書きたくないんですよ。四枚、五枚の随筆ばかり書いてゐると、とても厭世的になつてしまふのです。それこそ、復讐感が起りさうになります。だまつて、小説ばかり書いてゐたいのです。」

「さうでせうね。」とNさんは、本心から同感を寄せて下さる。「ほんたうに、いけないんですよ、こんな事をお願ひするのは。ですから、テエマにこだはらず、どんな事でも、いいのです。書いて下さい。」

Nさんは、この遠い田舍の陋屋に、わざわざ訪ねて來てくれたのだといふ事を思へば、私は今、頑固に斷つてこの場を氣まづくするのが、少しつらくなつて來たのである。私の心の中にはやつぱり臆病な御氣嫌買ひの蟲がゐる。たうとう書くことになつた。けれども、「書くことはありません。書きたくないのです。」といふ言葉は、私の本心からのもので、それは、ちつとも變つてゐない。書くことが無いのだ。仕方が無いから、Nさんが、それか

らおつしやつた、氣持のいい言葉を、歪曲すること無く、そのまま次に書き記す。

「復讐なんて、私は、きらひですね。忠臣藏だつて、考へてみると、へんなものですよ。婦女子ばかりの無防備の家に、夜盜のやうに忍び込んで、爺さんひとりを大勢かかつて殺してしまふのですからね。卑怯ですよ。復讐なんて考へてないと嘘をついたりして。やりかたが、汚いぢやないですか。曾我兄弟だつて、小さい時から、かたきの何とかいふ人を殺すことばかり考へてゐたわけでせう？　それをまた、母親が一生懸命にそそのかす。陰慘ぢやないですか。十八年間も、うらみを忘れずにゐるなんて、氣味の惡い兄弟ですよ。私は、そんな人とは、とても附き合ひ切れない。

武士道といふのも、へんなものですねえ。」
「さうだ。それを書きませう。」と私が言つたら、Nさんは快活に笑つた。
それから、Nさんがちかごろ見た映畫の筋書や、戰爭の事や、東北人（Nさんも、私と同じ、東北の生れであつた。）の長所や短所、青年の無氣力、婦人雜誌の賣行きなどに就いて、いろいろ卒直な面白い話を聞かせてくれた。この原稿の件さへ無ければ、私にとつて實に樂しい半日であつたのだ。
結局こんな、不得要領の原稿が出來て、Nさんには、お氣の毒でならない。けれども、恩讐記と題して、讀者の下等な好奇心を滿足させる爲に、多少ゴシツプめいた材料などを交錯させて神妙

に五、六枚にまとめ上げるのが、作家の義務であるのなら、作家は衰弱するばかりである。年少虚名の害に就いては、私だとて、よく知つてゐるつもりである。ろくな事にならない。讀者もよくないのである。私は、現代（昭和十五年）の讀者を、あまり、たよりにしてゐない。

　以上は、虚傲の放言ではありません。いろいろ考へた上で、言つてゐるつもりであります。重ねて、Ｎさんには、おわびを言ひます。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集11」筑摩書房
1999（平成11）年3月25日初版第1刷発行
初出：「文章倶樂部　第六巻第七号」
1954（昭和29）年7月1日発行
入力：小林繁雄
校正：阿部哲也
2011年10月12日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://ww

w.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

大恩は語らず

太宰治

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/